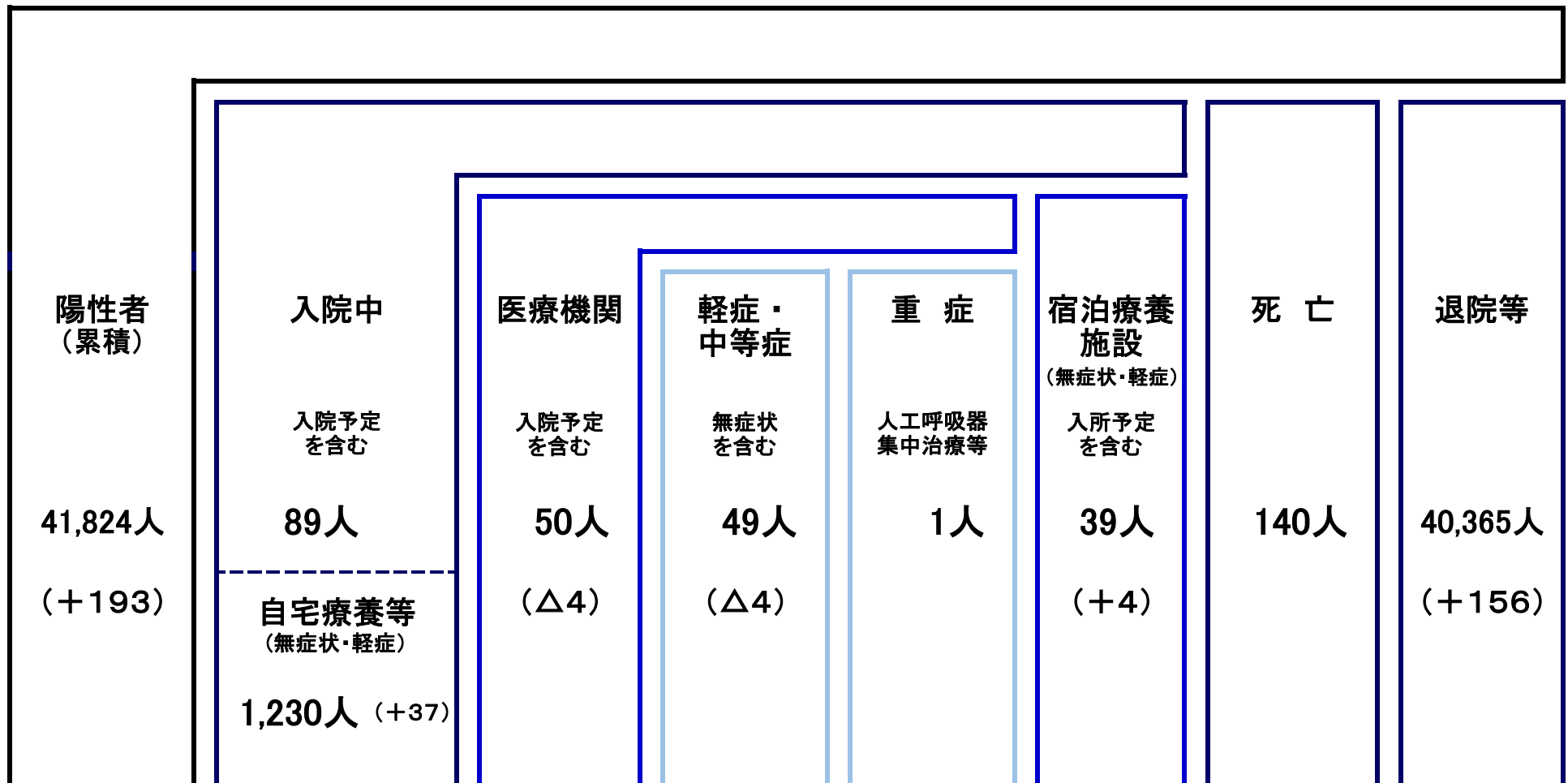


県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生状況について

令和4年6月14日 9時現在



《都道府県の状況》

順位	都道府県	人口10万人 あたり新規陽性者数
1	沖縄県	596.0
2	鹿児島県	159.4
3	熊本県	135.2
4	福井県	122.3
5	北海道	118.5
6	長崎県	115.7
7	宮崎県	115.3
8	広島県	111.6
9	岐阜県	104.9
10	大阪府	102.4
11	福岡県	101.6
12	佐賀県	101.4
13	石川県	99.4
14	青森県	99.0
15	高知県	98.3
16	岡山県	87.5
17	愛知県	84.3
18	愛媛県	82.3
19	兵庫県	81.4
20	東京都	80.4
21	京都府	80.1
22	山口県	79.5
23	宮城県	78.1
24	大分県	78.0
25	滋賀県	73.3
26	徳島県	73.1
27	岩手県	71.6
28	香川県	69.7
29	奈良県	62.9
30	静岡県	59.0
31	富山県	58.7
32	山梨県	57.7
33	神奈川県	57.5
34	秋田県	56.9
35	三重県	56.3
36	長野県	55.4
37	埼玉県	52.7
38	和歌山県	52.7
39	群馬県	51.8
40	茨城県	49.0
41	千葉県	46.6
42	鳥取県	46.1
43	山形県	44.4
44	福島県	42.1
45	栃木県	39.0
46	新潟県	38.2
47	島根県	34.3

全国平均
83.7

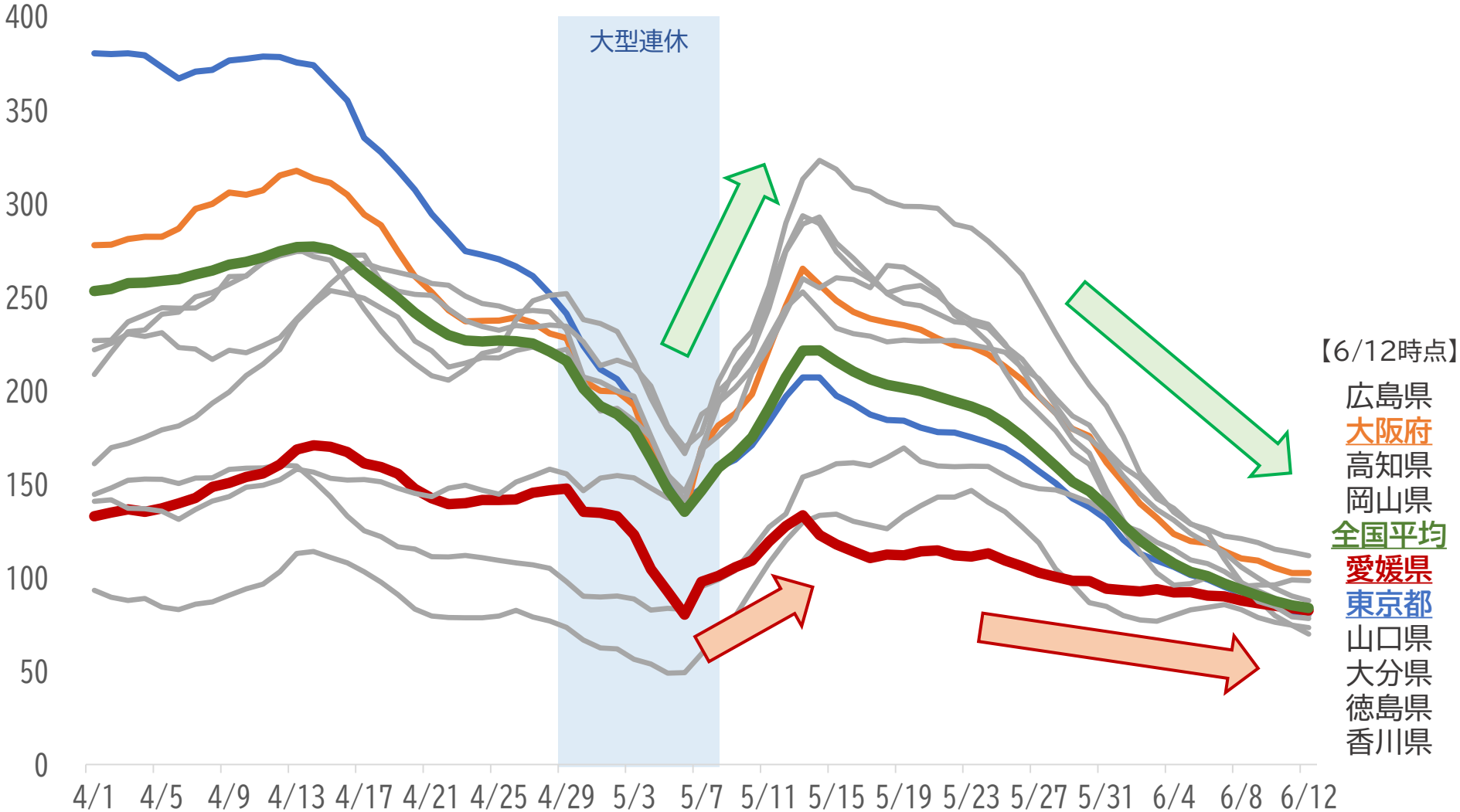
※人口10万人あたり新規陽性者数：6/12までの直近1週間
(厚生労働省公表「新規陽性者数の推移(日別)」に基づいて算出)

4月以降の都市部・近隣県の陽性者数の推移（人口10万人あたり）

※ R4.4.1～6.12公表分

- 大型連休明け以降、全国的に一時増加したが、その後減少
- 本県も他県と同様の傾向にあるが、**減少幅は他県と比較して緩やか**

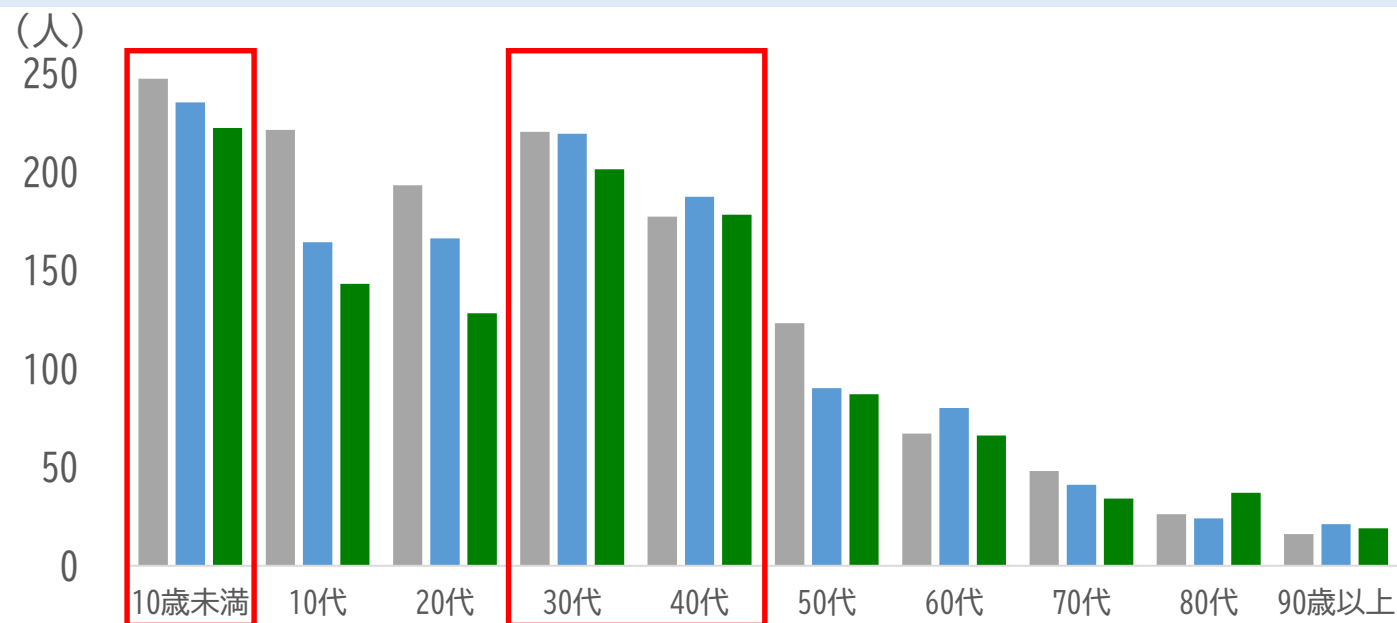
【10万人あたり陽性者数（人）】



直近3週間の陽性者数の推移

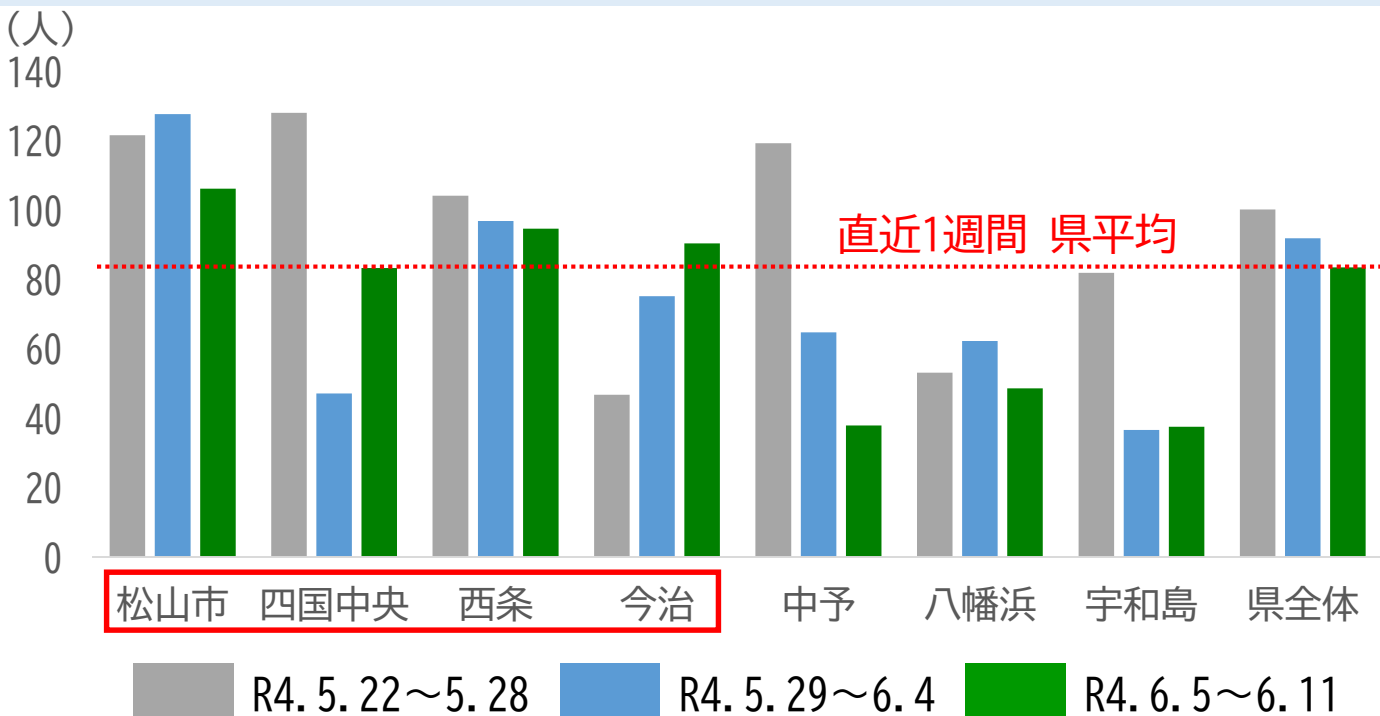
年代別（陽性者実数）

- 10代・20代が減少。その他の年代は緩やかな減少または横ばい
- 感染の大半は、40代以下。特に、10歳未満の子ども世代と30代・40代の親世代は陽性者数が多く、減少幅も小さい



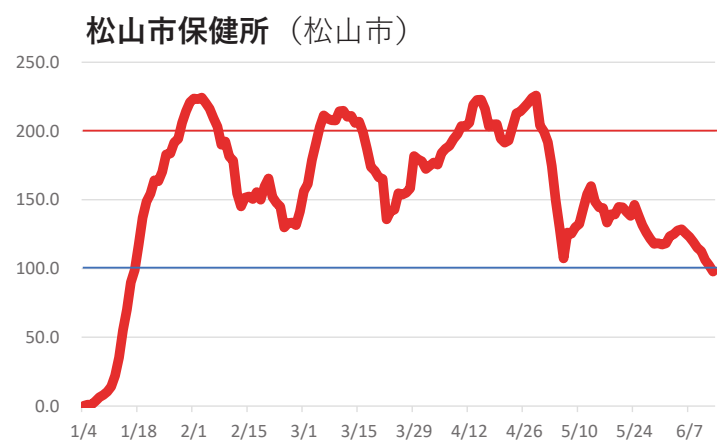
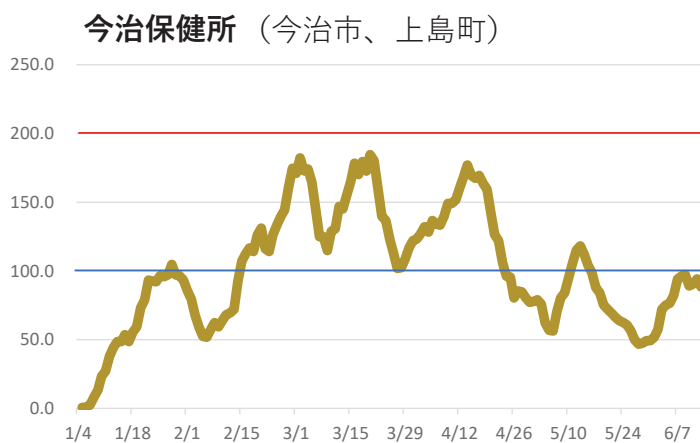
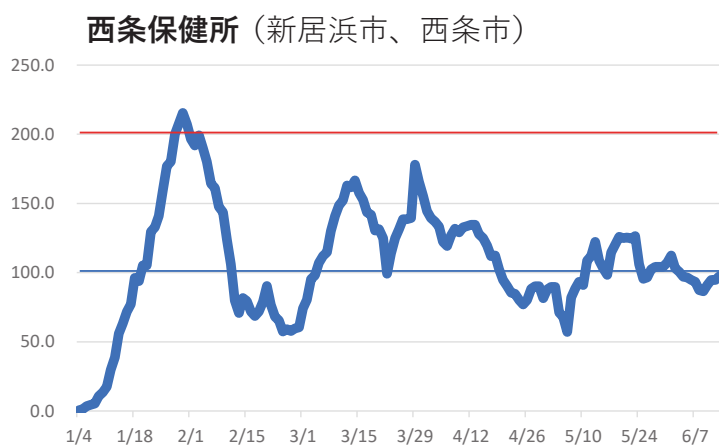
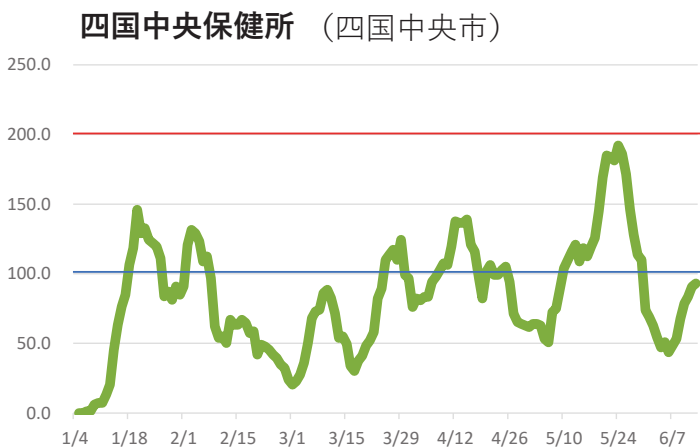
保健所別（人口10万人あたり）

- 中予、八幡浜、宇和島管内は減少傾向で水準も低い
- 松山市、四国中央、西条、今治管内は減少幅が鈍く、一定の水準が続いている。特に、四国中央、今治管内は増加傾向



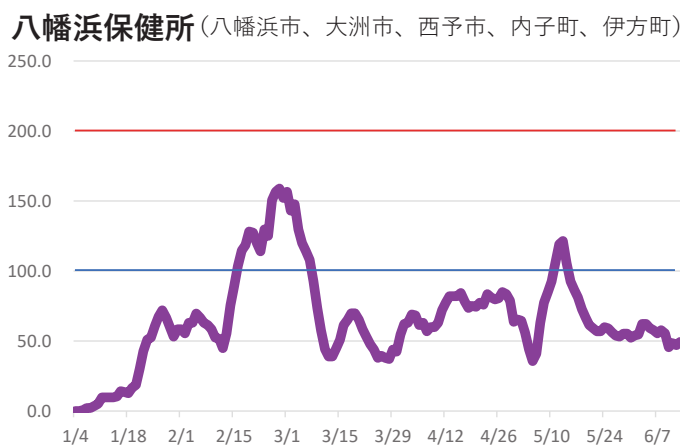
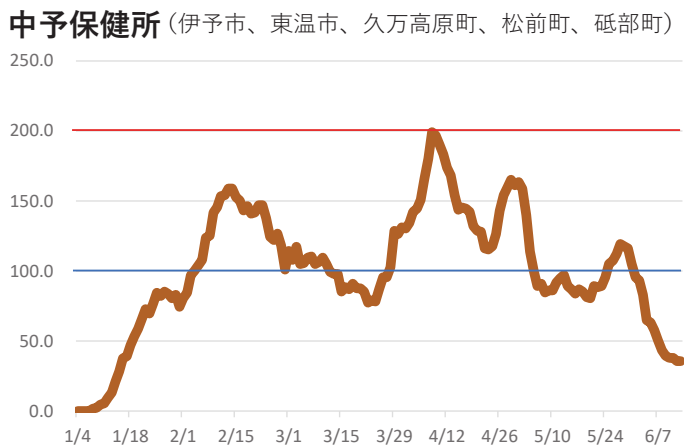
人口10万人当たり陽性者数（1週間）の推移（保健所別）

※1/4～6/13公表分

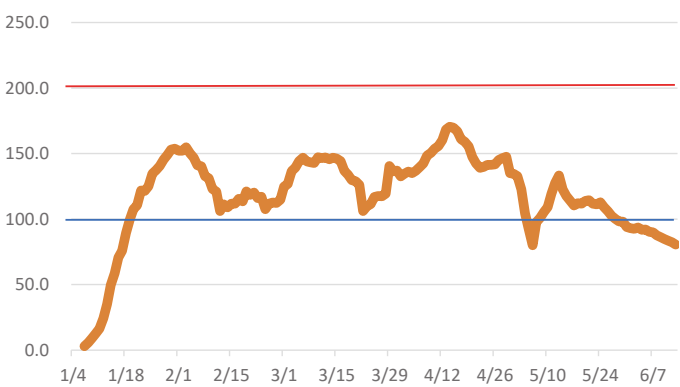


人口10万人当たり陽性者数（1週間）の推移（保健所別）

※1/4～6/13公表分



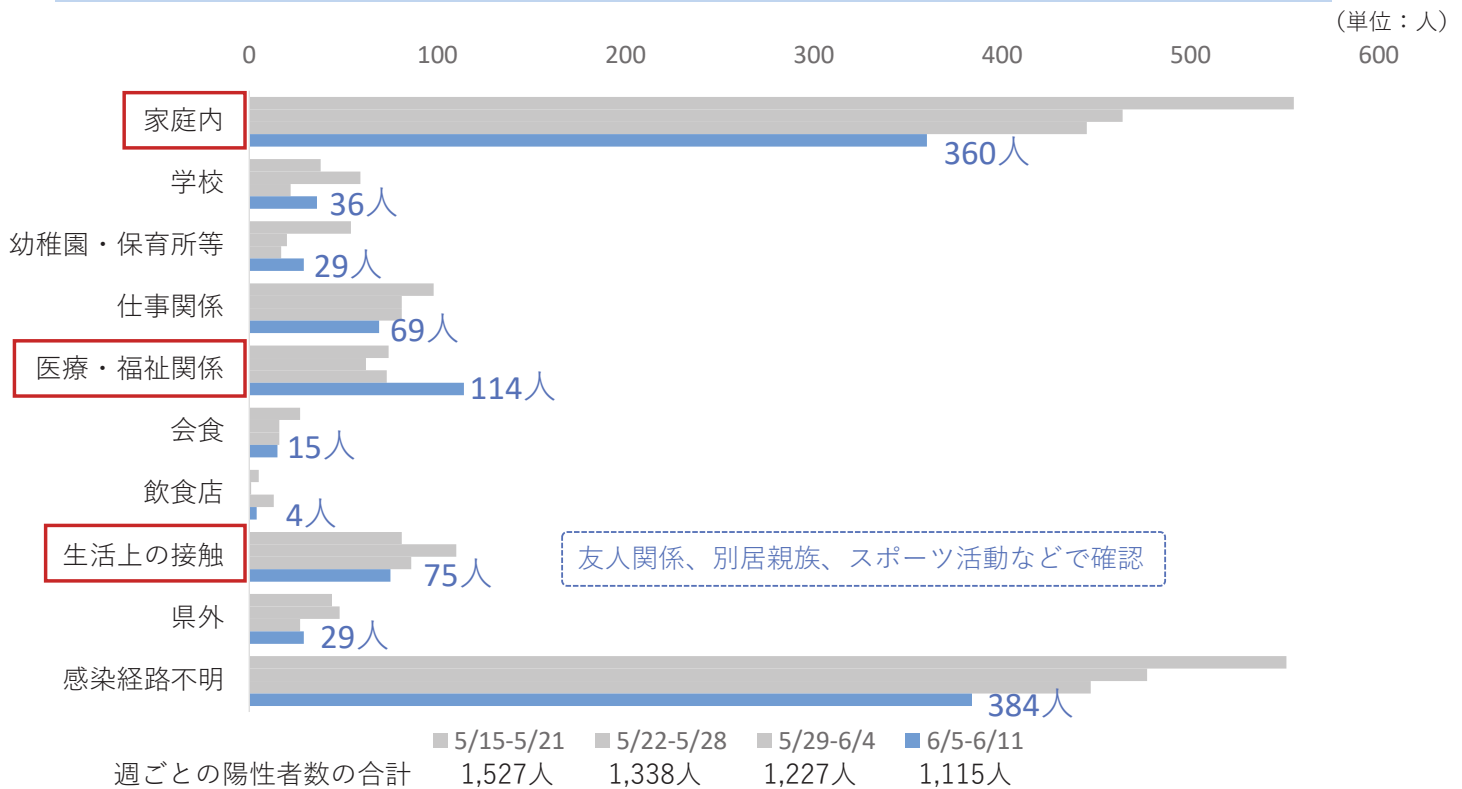
県全体



1週間ごとの感染経路の内訳と推移

R4.5.15～6.11公表分

- 感染経路が判明している中では、「家庭内」が約半数を占める。
- 「医療・福祉関係」、「学校」、「幼稚園・保育所等」が増加。
- 「生活上の接触」では、「友人関係」で一定数の陽性を確認。



1週間ごとの「感染経路不明」の保健所別状況

R4.5.15～6.11公表分

- 松山市保健所が県全体の約半数を占める。
- 四国中央保健所、今治保健所、宇和島保健所で増加。

